

令和7年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	78	学校名	浜松工業高等学校（全）	記載者	野崎 真司
------	----	-----	-------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	SSHⅢ期目で実現する「令和の日本型学校教育」における、社会を支える技術者の育成	課題研究を筆頭に教科・学科間連携による授業の実践	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 電気科3年生と理数工学科2年生の共同研究を行い「山崎賞」を受賞した。工業科と普通科との連携について、今後さらに研究を進めてください。 SSHの発表でもよく学科間連携はとれている。工業科と普通科との連携は今後の課題（各科で1つ）。工業英語は進めてください 電気科3年生と理数工学科2年生の共同研究を行い「山崎賞」を受賞した実績が評価される。今後は「課研開発」等を通じて普通科と工業科の連携を一層深めていただくことが期待される。 専門教科のみならず、学科の枠を超えた取組みに成果を得られています。更に発展できるよう先生方の実例研究なども大切になると思います
		より探究的な課題研究の具体的な実践	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 工業科目において共通科目の内容を導入する取り組みを進めている。次年度以降は、学校設定教科「課研開発」を軸とし、共通科目の授業内にも工業科目の専門的知見を融合させるなど、教科横断的な学びを深化させてください。 校内発表会（学校祭を含む）など下級生への刺激材料もあり、充実していた。 これまでの「課題研究」に満足することなく「課研開発」を軸としたカリキュラムマネジメントが計画されていることが特に評価される。 外部講師による講話講習は非常に意味のある取組みです。生徒の主体性が高まるような研究を期待します。
		創立110周年記念誌を制作する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒保護者や地域社会への広報をよろしくお願いします。 完成を祈ります。 節目で記録を残していただくことは重要でありこれまでの取組みが評価される。

					<ul style="list-style-type: none"> ・伝統ある浜工の歴史を現役生にも理解いただき、今後の学校生活に自信と誇りをもっていただきたい。 ・生徒が記念誌作成にどのように関わってきたのか明記したほうがいい。
		「SSH 事業をとおして成長できた」に「はい」と回答する生徒 75%以上	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「成果と課題」にあるように、工業高校としての取組が SSH とつながっていることの意識の共有をより一層図ってください。 ・かかわりある生徒とない生徒の温度差にすごくあるなどは思いました(12月の発表会等) ・生徒発表は充実している。今後も多くの生徒が最新の Topic など新鮮なものに触れる機会を与えてください。何らかの刺激にはなる。 ・入学時点から科学技術に興味のある生徒が多いことを踏まえて、入学後にどの程度生徒の意識が向上したのかを評価する聞き方に変更すれば、より実態に合った評価ができると思われる。 ・高い成果を得ていると思われます。現状はB評価ですが意識づけすることで達成可能だと思われます。 ・SSH 事業を受講したことがないが41%おり、事業で成長できたと回答が78%あるので、より多くの生徒が受講できるようにして欲しい。
		SPI 対策、外部検定試験の受講推進 「教育課程は自分の進路希望にかなうものになっている」と回答する生徒 90%以上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストの出願等、デジタル化への対応をさらに進めてください。 ・企業や大学が求める人材情報など大いに発信してください。 ・就職と進学両面で多様な希望に応えてくださっていることは大変評価される。今後電子化が進んでいく各種試験等への応募にも引き続きご指導をお願いしたい。 ・希望する進路に即した指導は学力向上のみならず、地元企業における浜工の価値向上につながることを考えます。
イ	基礎・基本の定着と知的好奇心の育成	「先生の説明はわかりやすい」「質問に丁寧に答えてくれる」と回答する生徒 90%以上	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、生徒が今まで分りにくかった部分を可視化し、主体的に取り組んでいく授業展開を今後も継続してください。 ・ICT利用の可視化は必要です。先生の研修も必要でしょう。先生方の企業研修も必要です。座学の見学も一度してみたいです。 ・先生の対応が一定程度評価される

				<p>のはやむを得ないと思われるが、疑問を解消することは生徒自身であるべき（先生はその手がかりを与える）と考えると、この質問の仕方自体を少し見直してもよいかもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常に高い成果を得られています。先生と生徒が互いに信頼し合っていることの反映だと思われます。引き続き内容の濃い授業が実施されることを願います。 ・授業以外の自己学習環境をより整備して行ってほしい。
		<p>生徒の年間平均貸出冊数2冊／人以上 「本校は読書指導に熱心に取り組んでいる」と回答する生徒70%以上</p>	<p>B</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新校舎では、図書館の多機能化を考え、利用者を増やす工夫、展示を進めてください。 ・廊下に自由文庫を置くのはどうでしょう。生徒が自由に貸し借りできるもの。本は先生、PTA、OBから寄贈してもらおう。 ・探究的な学習の指導と一体的に、図書館の使い方、例えばインターネットにはない（あるいはインターネットでは信頼度が低い）情報はどんなものか、興味関心に合わせて文献検索をするにはどうしたらよいかといったことを指導していただくと図書館利用の必然性が高まると思われる。 ・IT化が進む昨今の社会情勢を鑑みて読書の必要性を理解するとともに、時間帯の有効活用することで得られる効果を知る必要があると思われる。 ・図書委員会の活性化を通して、さらなる図書利用を拡大していただきたい。 <p>図書館に教員の教材研究に応えるものがそろっていないので、教員の希望図書を伺い、揃えて行ってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用者が少ない点について、毎年、Aになればと思っていましたが、今年もB評価で、新校舎になって、生徒たちが行こうと思える図書館になれば、すぐにでもAになれるのではと思います。期待しています。

ウ	生徒会を中心とした生徒主体の活動拡大	<p>学校行事における生徒の満足度90%以上 「ボランティアに関心がある」と回答する生徒85%以上</p>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会中心に学校行事が運営されているようで何よりです。生徒・保護者・教員の調査からは、福祉教育・ボランティア活動への関心が低いように感じます。今後は福祉教育・ボランティア活動に取り組めるような機会提供をお願いします。 ・学校行事は順調だと思います。地域行事（防災、清掃活動、スポーツなど）に参加のため、情報収集を試みたらどうでしょうか。地域との連携が希薄のような気がします。 ・生徒が興味のある分野でボランティア活動に参加し成功経験をすることが、後輩のボランティア参加率を高めることにもつながると思われる。Ei を例にすると、小中学生向けプログラミング教育に関わるなどは生徒が興味を持ちそうなボランティア活動だと思われる。 ・部活動や各科の活動をとおしてボランティア・社会貢献に携わる機会を支援する必要があるようです。地元企業・自治体・NPO 等を介して参加する機会を増やす方法も検討していただきたい。 ・社会福祉・ボランティア活動への関心がある生徒に対して、より効果的な情報提供を行い、また保護者の評価が低いので、活動の可視化に努めてほしい。教職員の価値づけがまだまだ低いので、意識改革の必要性を感じる。
エ	学校ホームページの有効活用及び効果的な広報活動の展開	1 日の平均訪問回数 800 以上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科および一部の部活動において、頻繁な更新による成果が見られているようです。引き続き広報活動の推進をお願いします。 ・改訂されたのなら◎。 ・更新が大変と思いますが続けていて下さい。 ・保護者の意見を踏まえて軽微な Web サイトの変更を行ったことが功を奏したということで、他校にも参考になる取り組みだと思われる。 ・時期における閲覧数の増減は致し方ないとして、2月から3月に掛けて閲覧数が増えるのではないかと。部活動においては各部インスタグラムによる広報も増加しているので目的は十分に達成されていると思われます。

<p>オ</p>	<p>多様化する生徒の進路 選択の把握と希望する 進路先への導き</p>	<p>就職内定率 100 %、国公立大学合 格者 25 人以上 「進路について の情報提供は十 分である」と回答 する生徒 90%以 上</p>	<p>B</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「進路についての情報提供は十分である」の解答は高いと思います。今後は、総合型選抜、推薦入試の多様化への対応をより一層進めてください。 ・良好と思います。新しい就職先の開拓は是非お願いします。SSHで大学入学数など要求されることはないのでしょうか。 ・入試のあり方と大学の学科がともに多様化しているため、進路指導のご苦労があると思われるが、生徒自身が賢く大学を調べるための指導も含めて引き続きご対応をお願いしたい。大学としてできることがあればぜひお知らせ願いたい。 ・実績が伸びる傾向にあり継続的な成果と感じます。専門学校や就職など選択した生徒も含め、第一志望の達成率や満足度も大切かと思いません。 ・SSH事業の成果を、進路選択につなげていってほしい。また多様化といいながら、国公立の合格者数に拘るのは整合性に欠ける。
<p>カ</p>	<p>基本的な生活習慣の確立 と安全・安心な学校づく りの推進</p>	<p>重大な交通事故 ゼロ</p>	<p>B</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルメットの着用を推奨するとともに、交通安全教育の指導と充実を図ってください。重大事故ゼロをお願いします。 ・昨年度よりは途中経過数ではありますが減った原因は何だったでしょう？ ・自転車の青キップ制度の導入まぢかです。日ごろの交通安全意識は大事です。周知徹底を図り、事故の内容をお願いします。 ・ヘルメット着用の推奨を予定するだけでなく、校長先生が自ら動画を作成されたことは説得的だと思われる。思春期の生徒にとってヘルメットの心理的抵抗は一定程度あると思われるため、今後も引き続き工夫して指導していただくことが期待される。 ・個人個人の意識の向上を図り、ヘルメット着用の必要性を認識させるとともに交通ルールの遵守を徹底する教育が必要である。 ・重大な交通事故に限定するのではなく、交通事故を未然に防ぐ視点からの成果目標に見直す方がいいのではないかと思う。

				<p>重大な交通事故ゼロについて、命にかかわるような事故は起きていないとのことですが、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故が 24 件あったとのこと。 <p>浜工は、自転車通学の生徒が多いので、学校側も十分配慮して生徒への指導をしていただいておりますが、事故は起きてしまいます。</p>
	防災訓練の年 3 回実施	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・避難経路や動線の変更が伴うことが変わることが考えられます。新校舎移転に伴う学校敷地内の状況に対応した防災対策をお願いします。 ・防災では高校生は大事な戦力。学校の外でもしっかり対処できるように（自助、共助）防災知識・技術の取得に取り組んでください。 ・新校舎の運用が計画されているなかで避難経路の周知徹底が容易ではないと思われるが、敷地の広い学校であり他校からも注目されると思われるので、他校のモデルになるようなご指導を期待したい。 ・防災訓練に実施回数が目標に満たさない様子は重大な課題です。新校舎建設に伴う避難経路の移り変わりに対応した経路図の作成は徹底していただきたい。 ・特に災害が起きた時の連絡や帰宅対応について、保護者の不安払しょくに努めてほしい。
	「あいさつがきちんとできる」と回答する生徒 90%以上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も学校教育活動全体で継続的な指導と声掛けを実施してください。 ・同窓会や部活の OBOG 会で毎週のように学校を利用していますがどの子も挨拶してくれる印象です。 ・よくできてると思います。 ・進学・就職問わず基本的なあいさつができるよう指導いただいていることは高く評価される。 ・浜工生のあいさつは本当にすばらしい。学校内を歩いていてもどこからともなく挨拶の声が飛んでくる。この伝統は引き継いでほしいと切に思います。
	保健だよりの発行年間 10 回以上、職員による安全点検年 6 回実施	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症、熱中症など注意喚起を含め、積極的な手洗い・消毒の声掛けを実施させてください。 ・自分の健康管理は大人としての必須事項、その意識付けとともに行動ができるように。保険だよりに、日々気を付けることなど提示してください。

					<ul style="list-style-type: none"> ・日頃からの感染症予防の指導がおこなわれていることは高く評価される。 ・目標を達成できていると思います。改めて積極的な声掛けを励行してください。
		教育相談室員による面談年間 20 回以上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関とのより円滑な連携および情報共有を推進してください。 ・気軽に相談できる体制をお願いします。 ・相談室と SC で多数の面談を実施して下さったことは多様化する生徒への対応として高く評価される。 ・スクールカウンセラーの活用件数や状況を周知すると相談しやすいと思います。
		授業中や放課後の活動において重大事故ゼロ ヒヤリハット集の共有	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も危機管理マニュアルを点検し、生徒・教職員の安全意識の向上を図り、ヒヤリハット事例の共有を徹底してください。 ・実習での気の緩みでも大きなケガにつながると思いますが、社会にでてからは命に関わることもあるので指導していただきたい。 ・安全意識は企業でも大きな要素。始業前の声掛けや迅速な行動、整理整頓など毎回行ってください。 ・KY による安全指導が実施されていることが評価される。 ・工業科における KY 活動は非常に有意義である。リスクアセスメントも実施するとさらに効果的になります。 <p>ヒヤリハット事例は報告書で共有するよいと思います。</p>
キ	教育活動が円滑に展開できる教育環境・職場環境の整備	学校開校日のネットワーク稼働率 100%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・設備の老朽化や無線通信が不安定な場面については、改善をお願いします。 ・不良箇所は速やかに改善してください。 ・ICT が学びのインフラとして位置づけられるようになったため、ICT が稼働するインフラとしてのネットワークも引き続き安定運用となるよう期待される ・機器の維持管理に苦勞されている様子が伺えます。通信が不安定になるところを生徒が理解することが必要だと感じます。

		<p>学校の施設（機械・備品等）について「満足できる」と回答する生徒 80%以上と新たな施設建設工事における事故ゼロ</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新舎新築工事においては引き続き安全管理を徹底してください。 ・新校舎の完成楽しみですね。 ・学校の備品には OB の協力も必要。日ごろから企業との親密な関係作りをしていって下さい。 ・今後の新校舎竣工によって設備面の一層の改善が進むと考えられるため、来年度以降もよりよい評価になることが期待される。 ・おおむね目標は達成できていると思います。「施設・設備」を改善することは、予算制限がある中、学校単独での取組みが難しいと推察します。必要などころから進めてほしいです。 <p>本館新設工事は無事故無災害で完工できるように努めてください。</p>
		<p>学校給食についての肯定意見 85%以上</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果を踏まえて給食業者とも協議し、少しでも満足のいく給食の提供をお願いします。 ・(エアコン導入)・快適な環境の中食事ができることはよかったです。 ・今までの経験から生徒の希望するものを多く提供してください。栄養面・費用の問題もありませんが。 ・全国的にもユニークな伝統であり家庭からの期待も大きいと思われるため、これまで通り前向きに取り組んでいただくことを期待する。 ・今はメニューも豊富で何も問題なく、改善点は皆無に等しい。 <p>物価高で給食業者も大変だと思いますが、量を減らすより給食費を上げていったほうが良いと思います。</p>
		<p>夏季休暇取得 100% 時間外勤務前年度比 90%の実現 服務事故 0 件</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の労働災害が 3 件については、再発防止のためにも全教職員で情報を共有してください。 ・教職員の自己研修の時間が取れるようにお願いします。教職員の労災発生は残念でした。再発防止に取り組んでください。 ・引き続き先生方にとって働きやすい環境を維持していただきたい。 ・学校をあげて働き方改革に取り組んでいただきたい。熱中症に注意する時期でもありますので、先生方の心身の健康管理も大切にしてください。

様式第5号

ク	生徒の意欲を引き出す 指導方法の確立	授業公開での教職員相互授業参観2回以上 生徒授業アンケート2回以上 ICT機器を活用して教育活動を展開する教職員100%	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・活発な相互授業参観を進めてください。また、2回実施した授業アンケートのデータを有効活用してください。 ・教職員の新知識・新技術の獲得のためにも、企業研修・他校参観など実施できればと思います。 ・引き続き授業研究を推進していただき、生徒の主体的な学びを支援していただきたい。 ・相互授業参観は教員間の連携強化、若手教員の育成の観点からも効果が期待できます。 <p>今やICT機器の活用、オンラインでの情報共有は当たり前の時代になっている。是非ともICT化を進めていただきたい。</p>
---	-----------------------	--	---	---	---